

茨城県立協和養護学校 (学校長 内田 哲夫)

実施日	平成19年12月19日(水)	時間	午前10時30分～午後12時
実施場所	ブレイルーム	対象/人数	中学部2年生14名
担当教諭	石山 一陽, 石引 直美	ファシリテーター	小林 郁子
講師	パーコフィー・エイキンス(ガーナ) リム・フェキ(チュニジア・留学生)		

活動内容

ガーナについて知る

- ・民族音楽、楽器についての紹介
- ・実際に打楽器を体験、合同演奏会

チュニジアについて知る

- ・チュニジアの文化紹介、貨幣・紙幣の違い、言葉・日本の漫画のお話
- ・アラビアダンスの鑑賞、体験
- ・民族衣装の試着体験

児童の感想

- ・ガーナの人の背が大きくて、僕も大きくなりたいと思いました。
- ・ガーナの太鼓を叩いたり、チュニジアのダンスを踊ったりしたのがとても楽しかったです。
- ・外国の人と会えたり、お話をしたりすることができて、とても楽しかったです。また来てほしいです。
- ・みんなと一緒に太鼓を叩いて楽しかったです。
- ・チュニジアの衣装がきれいでした。
- ・チュニジアやガーナに行ってみたいです。
- ・また一緒に勉強したいです。
- ・太鼓が楽しかったです。
- ・もっとお話がしたかったです。

先生の感想

・この交流会は、自分たちと違う文化・生活について知り、民族舞踊や民族楽器の演奏などを通して、異文化の雰囲気味わう目的で行われました。講師の方々を見て、肌の色が自分たちと違うことで、戸惑う様子を見せた生徒もいましたが、予め、その国々について事前学習をしてあったので、質問に積極的に手を挙げた生徒もいました。日本のアニメは世界でも放映されているようで、同じ漫画でも文字が違って書かれていることに驚いたり、初めて見る楽器や民族衣装に興味を持ち、楽しく踊ったりしている様子を見ると、生徒達にとって良い経験になったと思います。またやりたい、外国に行きたいという感想もあったことはとてもうれしく思います。

成果と課題

- ・これをきっかけに、自分たちの住んでいるところから世界に目を向けて学習することができた。日常生活の中で国際交流を意識する機会は少ないだけに、生徒たちは、はじめ戸惑いも見られたが、他の国の人と直接ふれあうことで、「世界」を体感できたように思う。実際に体験することの大切さを改めて感じた。また、教師にとっても「生徒に世界の中での日本を考えさせる」絶好の機会を与えることができたように思う。
- ・初めての試みだったこともあり、わからないことが多かったが、コーディネーターが懇切丁寧に対応してくれたおかげで、スムーズに進めることができた。
- ・今後は、他の国々の方々とも交流を進められるような学習の継続が課題と考える。

